



カンムリウミスズメ

ふれあい

平成24年6月 NO3
発行 門川町教育研究所
所長 新原とも子
TEL 63-1566
五十鈴小学校内(教育相談室)



今年は、防災教育とふるさと教育の研究に取り組みます！
研究の目標
自分自身で考え、判断し、行動できる子どもを育てる。

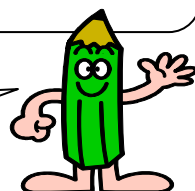
子どもの命を守る“防災教育”



「防災教育は、門川町の子どもたちの命を守るために、私たちに課せられた喫緊の課題です。海に面した門川町で大津波が起こった時に、“門川の子どもから一人も犠牲者を出さない”、といった思いで研究に取り組み、それを実現できる力を育てることが大切です。門川町で大人になって生きていく時に必要な、生きる力としての防災に対する強い思いや自ら判断して行動できる実践力を育ててほしい。」という言葉が新原教育長から寄せられました。“門川の子どもから犠牲者一人も出さない”という思いを大切に、防災教育の研究に取り組みます。

防災教育2つの目標

行動する力、協力する力を育てます。



① 自分で判断し、行動できる力を育てます。

3つの指導に力を入れます

- 地震・津波の知識をしっかり教えます。
- 臨機応変に行動できるようにします。
- 真っ先に避難できる行動力を育てます。

まず、自然災害に関する正しい知識を指導します。登下校中、自宅、外出先など、どこでも対応できる知識を指導します。

学んだ知識をもとに、想定外を考えて的確に判断し、迅速な行動をとることができる実践力を育てます。

多くの人々が避難するきっかけになるように、真っ先に避難できる行動力を育てます。

② 地域の安全・防災に協力できる力を育てます。

地域のために役立つ心と力を育てます

- 進んで安全・安心な社会づくりに協力できる心と力を育てます。
- 復旧・復興を支える気持を持ち、行動できる力を育てます。

安全・安心な町づくりや地域づくりに進んで協力し、社会の一員としての役割を果たそうとする心と実践力を育てます。

災害後の復旧・復興を支えるボランティアの心やボランティア活動に必要な知識やスキルを指導し、他の人を思いやる心、認め合い共に生きていく態度、生命や人権を大切にする精神を育てます。

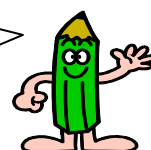
子どもの命を育てる“ふるさと教育”



「ふるさと教育の意義を再認識してほしい。大震災や古事記編さん1300年などを契機として、ふるさとでの生き方やふるさとに対する関心、誇りなどを育てることが大切です。そのために必要な意図的・計画的な教育を実践する必要があります。そして、将来的には、キャリア教育として位置づけ、門川町の特長を生かして、ふるさとで自立できる人材育成が大切です。今後数年の研究・実践をととして、ふるさと学習を深化・発展させる方向で取り組み、門川町が目指す、“一人ひとりが主役の町づくり”の実現を目指したいと思います。」（新原教育長の言葉）

ふるさと教育2つの目標

ふるさとを知り、愛する心を育てます。



① ふるさとを学び、ふるさとを愛する心を育てます。

ふるさとを知る！

ふるさとを知り、体験して学びます！

- ① 自然や産業などを学びます。
- ② 歴史・文化を学びます。
- ③ 先賢や地域の人々の精神を学びます。

子どもたちは、郷土に対する興味・関心はあるようですが、意外と具体的な知識や体験は少ないようです。そのために、郷土を愛し、誇りにするところまでの高まりが十分とは言えません。地域を知る学習をととして、郷土についての知識を身に付け、愛する心や誇りを育てることにつながる教育に取り組みます。

② ふるさとを考え、ふるさとを語る思いと行動力を育てます。

ふるさとへの思いを育てる！

自信や^{ほこ}誇り、将来の夢を育てます！

- ① ふるさとに関わる活動に取り組みます。
- ② ふるさとを考え、語る力を育てます。
- ③ ふるさとを支え、発展^{きがい}させる^{きがい}気概を育てます。

体験活動をととして知識を身に付けるとともに、進んで地域の活動に関わる、地域を考える、地域についての思いを語る、といった指導を工夫して、将来、郷土を支え、発展に貢献したいという意欲や^{きがい}気概を育てることにつながる教育に取り組みます。

子どもの教育や子育てで、悩んでいませんか？

困った時には、教育相談室に
気軽に電話をしてください。

相談電話（門川町教育相談室）
63-1566

~~~~返信欄（教育研究所便り「ふれあい」へのご意見やご感想をお聞かせください。）~~~~